

今週の話題：

<インドにおけるデングネット>

デング熱（DF）とデング出血熱（DHF）の流行は最近の数十年で世界規模での公衆衛生問題として浮上している。特に東南アジア地域はDF/DHFのリスクが最も高く、世界的なリスクの52%を占める。

デングネットの実行を含む、疫学的・研究的監視の強化はデングの予防や管理のための国際的なまた地域的な戦略として優先度が高い。デングネットはWHOグローバルデータ管理システムであり、疫学的・研究的監視データの収集や分析のために、デング熱やDHFの予防と制圧の国内および国際的な計画の能力を向上させるといった目的をもち、インターネット上に作られた。

東南アジアと西太平洋地域のデングネット実施に関する合同会議が2003年12月11-13日にクアラルンプールで開催された。会議の目的は、この2地域に試験計画を拡大することであった。この会議の提案を基にデング熱監視の強化のための2回のワークショップが2004年3月にインドで開催された。

ワークショップの主な目的は入口の段階でデングネットを利用してベクター媒介疾患の疾病監視および対応を強化することであった。現行の監視の実際（症例定義の利用、報告形式や情報の流通機構など）を評価、研究施設やDHFの検査、地域の共同研究所の特定と強化、デングネットへの参加の枠組みを制定することなどに焦点を当てた。

マラリアなどの経験から統括的な方法の必要性が確認された。また、ヘルスワーカーらへのトレーニングや検査サービスの強化を通じ、国家、州、地区レベルでの疾患サーベイランスと対応のための能力開発が要求されている。最近デングが流行したデリーでは監視システムが著しく改善された。

施設の実務的利用を確実にするため、インド北部と南部に対し2つのWHO協力センター（WHO CC）を指定することが決定した。2つのセンターはトレーニング、質的管理、標準化された方法の利用、国内および国際レベルでのネットワークづくりの責務を負う。ワークショップの推奨を基に、2004年の行動計画（研究所強化、トレーニング、疾患およびベクター監視、ネットワークづくり、情報の共有やデングネットへの報告）を発展させるために引き続いての会議が計画された。国立伝染病研究所（NICD）は主な関係者と密接に活動し、2004年5月末に予定されている継続活動の先導の役割をになう。

<家禽における高病原性の鳥インフルエンザ H5N1 型の集団発生に関連したヒトの健康へのリスク評価 2004年5月14日の状況>

* 背景：2004年1月下旬、WHOはタイとベトナムでヒトにおける鳥インフルエンザの確認を受け世界的流行に対する対応準備計画を発動した。3月中旬から報告されたヒトの症例は、この2ヶ国の家禽での鳥インフルエンザの集団発生に直接関連していた。

2003年12月半ばから2004年2月にかけて、家禽におけるH5N1型への感染による集団発生はアジアの他の6ヶ国でも確認された。これらの集団発生は地理的規模、国際的な拡大、農業分野への経済的影響において歴史上前例がなかった。ヒトの健康にこれらの出来事は2つの意味をもつ。第1は、H5N1型はヒトに感染し、高い死亡率の重篤な疾病の原因となることが1997年以来の3回の発生で実証された。2004年の発生は最も大きく、公式には34例の報告のうち23例が死亡であった。ヒトの感染に対する予防接種はなく、病気が重篤になった場合の特別な治療もない。第2は世界的な流行となりうる新しいウイルスの出現の可能性である。世界的流行は周期的にしかし予測不能に再発し、高い罹患率や死亡率、大きな社会経済的な崩壊と常に関連している。

* リスク評価：

ヒトの健康へのリスクはH5N1型が家禽類で循環する限り存続する。ヒトへのリスクの評価は家禽類の疾病のリスク評価を基にすべきである。飼鳥類の罹患の有無、H5N1型のヒトへの感染の兆候とされる呼吸器疾患の確固とした監視システムが必要である。

* 家禽類のコントロール：

1億羽以上の鳥の処分を要した制圧への努力はヒトへのリスクを減少させたが、ウイルスが除去されリスクが消失したとは想定できない。WHOは早過ぎる疾病撲滅宣言の危険性を繰り返し警告している。

* 提案される即時行動：

家禽類の疾病状況が不明確で、ヒトの健康に重篤な結果を及ぼす可能性があるためWHOは下記のことを要求している。

- 全ての家禽類にH5N1型の排除に向けての継続的作業を続けること。
- 家禽類での新発生については関連当局と機関へ迅速に報告すること。
- 制圧のための仕組みをつくり、疾病が消失したことをモニターする機構を構築すること。
- 公衆衛生、農業分野、獣医サービス間の密接な協同。
- ヒトにおける伝染性疾患監視の強化や健康への正確なリスク評価の必要データの収集。
- WHO世界的インフルエンザ監視ネットワークの研究所でウイルスを共有すること。

（マーキーズ裕美、石川雄一、中園直樹）